

Well I appreciate the fact that he did get the economy in good shape and that he had the federal budget in good shape. And I am very grateful that he was able to do it.

そうですね、彼が経済をよくしたことについては、ありがたかったと思います。連邦予算を健全にしてくれたこともそうです。それをやり遂げてくれたということについては、本当にありがたかったと思っています。

I appreciate ... ~をありがたいと思う

やまと言葉

to appreciate ... は「...を価値や重みがあるものとして受けとめる」というのがコアの意味です。そこから派生して「感謝する」、「ありがたいと感じる」、「評価する」、「よく分かる」などの意味になります。

ロジック

相手にアドバイスや指摘をする<フィードバック形>の、「プラス面」を言うときに非常によく使われる表現です。I appreciate the fact (that) ... で「... (が価値があるものを受けとめ)感謝している」という言い方によって、プラス点を評価していることを伝えています。

クリントン氏は目の前にいるわけではないので、「Greatness, no」という部分からずばり始めてもよさそうに感じますが、やはり人に関する評価の話であることと、自分としても恩恵を受けているという点からも、やはりフェアに、<フィードバック形>の順番で話がありました。

get ... in good shape ~を健全な状態にする、いい状態にする

慣用表現

good shape は「よい形」ですが、「健全な状態」というニュアンスが加わります。ここでのように、経済や財政だけでなく、体調、機械などについても使えます。

the federal budget 連邦予算

I am very grateful thatを感謝している

ロジック

grateful は「喜びや感謝の気持ちでいっぱいである」というのがコアの意味。先の I appreciate the fact that... と同じように、ここも、I am very grateful that ...と感謝を示す言い方で相手のプラス面を評価しています。このように、「感謝系」の言い方でプラス面を認め、評価する言い方に慣れましょう。

Greatness, no, because I guess I would not be willing to give the label 'great' to a President whose only contribution seemed to be on the economic side, as important as that is.

「偉大」ということになると、答えはノーですね。理由は、おそらく、私としては貢献が経済面に限られる大統領に「偉大」という評価を下すのに抵抗があるのだと思います。それだって、とても大切ではあるんですけどね。

Greatness, no 「偉大さ」ということになると答えは「ノー」だ (= 偉大とは思わない)

パターン構文

greatness と名詞をポンと置いて、直後に no と否定することで、「greatness というのは当てはまらない」、「greatness とは思わない」と否定したり、反対したりする言い方です。

ロジック

「クリントン氏は great president だと思うか」という質問への結論がきました。「Greatness, no.」とクリントン氏に対するマイナスの内容がきたところで、プラス点から転換して結論部分が来たことをしっかりと押さえます。

because... なぜならば...

ロジック

サポートのひとつ目が「理由」できました。Because...と「旗印」表現を言ってくれていますから、それをしっかりとらえ、「理由」の中身を落ち着いて聞き進みましょう。

I would not be willing to give the label 'great' 「偉大」と評価するには抵抗がある

慣用表現

label 「ラベル」とは、「そのものの特徴をひとことで現しているもの」ですね。to give the label "...”で、人やものに対して、「あなたはこういう人ですね」、「こういうタイプの人ですね」と評価をしたり、特徴づけたりするという意味で使います。「~という評価をする」、「~とみなす」のような意味になります。

配慮表現

I am not willing to ...は、何かをすることに対して、「進んでそれをやりたい」とは思ってはあらず、どこか抵抗感がある状態を言います。<フィードバック形>のマイナス部分には、相手のマイナス面への指摘やアドバイスなど、相手にとって耳が痛いことがありますから、相手への配慮を示した話し方がされ

ます。この表現にもそれが表れています。I don't give him the label "great" 「偉大とは思わない」とズバツと言いつつではなく、「“偉大”とみなすには抵抗感がある」という、よりトーンの柔らかい話し方をしています。

a President whoseのような大統領

パターン表現 「名詞 + 修飾節で詳しい情報！」の英語らしい作りです。聞き取りでは、...to a President と不定冠詞で漠然と来ていますから、「どんな“大統領”なのか、後ろからもっと説明してくれそうぞ...」という意識で、足されてくる情報を待ちましょう。

contribution 貢献

やまと言葉 to contribute は「ある場に、自分の持っているものを入れて貢献する」というのがコアの意味で、アメリカの価値観の中でキーワードとなる大切な概念です。

~ seem to be ... ~のように見える

配慮表現 ここも、「マイナス面」を指摘する上での配慮が感じられます。...whose only contribution was on the economic side. などの言い方で「貢献は経済面のみに限られる」と言い切った印象になることを避け、...seemed to be on the economic side 「経済面のみに限られるように思えた」とあくまでも「自分の印象」として話しているところに配慮が感じられます。

~ as important as that is ... それだってとても大切ではあるんですけどね

慣用表現 これは、as が though の意味になる独特の表現で、「譲歩」を強調するときに使われます。「それが重要であるにも関わらず」という意味になります。

Partly because that is not necessarily a lasting contribution. The greatness of the presidents that I know are much more lasting contributions: whether it was Roosevelt's leadership in conducting the war; or whether it was Washington or Lincoln who made enormous contributions to the whole shape of our government.

その理由としては、それが必ずしも長期的な貢献ではないから、というのがあってと思います。私の頭に浮かぶ大統領たちの偉大さというのは、もっとはるかに長期的な貢献にあります。たとえば、ルーズベルトの戦争遂行におけるリーダーシップもそうですし、私たちの政府のあり方そのものに偉大な貢献をしたワシントンやリンカーンもそうです。

partly because... ...その理由の一部は

ロジック partly because... で、この後もうひとつの「理由」を挙げてくれることをしっかりと押さえて次を聞き進みます。

the greatness of the presidents that I know 私の頭に浮かぶ大統領たちの偉大さ

パターン表現 お馴染みの「名詞 + 修飾節で詳しい情報！」のかたちですね。日本語ならば、The greatness of the presidents 「大統領たちの偉大さ」で、「おそらくスピーカーの考えを言ってくれているんだろう」と話のコンテキストで十分に分かってしまう気がしますが、英語ではこのように、that I know(私の頭に浮かぶような)と、日本語なら敢えて言う必要もないような情報が後ろから足されてきます。

lasting 長く続く

語彙 lasting は「ずっと長く続くような」というのがコアの意味です。a lasting contribution で、「後世にもその影響が残るような長期的な貢献」という意味になります。

whether it was ... ~でもいいし

ロジック whether it was ... は前の文で言っていることをより納得してもらうために例を挙げるときに使います(it は前の文で言ったことを指します)。「あくまでも思いついた例で、とにかくポイントはさっき言ったようなこと」という感覚で、例そのものよりも前に言った文の方に重みがある響きです。「例えば...でもいいし、...でもいいし...」のように頭に思い浮かんだ例を挙げている感覚です。

to conduct a war 戦争を指揮する

語彙 to conduct a war で「戦争を指揮する、戦争を遂行する」の意味でよくセットで使われる「相性のいい

動詞 + 名詞(目的語)です。

Washington or Lincoln who made... ...をしたワシントンやリンカーン

パターン表現 「名詞 + 修飾節で詳しい情報！」のかたちです。ここでは、まず whether it was Washington or Lincoln 「例えばワシントンやリンカーンですね」と来ていますが、英語ならばほとんどの場合、ワシントンやリンカーンが、具体的にどのような「lasting contributions」をしたのか、きちんと説明してくれます。その可能性を頭に置いて先を聞き進み、...who..と聞こえてきたら、「で、この人たちってどんな人たちなの？」と先を楽しみに待ちましょう。

to make a contribution

語彙 to contribute (to ~) と動詞を使って「～に貢献する」ということもできますが、contribution「貢献」(名詞)を使っても言うことができます。そのときの相性のよい動詞は make です。to make a contribution でセットで身につけておきましょう。

the whole shape of our government 政府のあり方そのもの

やまと言葉 the shape of our government は直訳すると「我々の政府のかたち」ですが、とくにここでは the whole 「～の全体」がきていることもあり、「政府をかたちづけているもの全体」というニュアンスです。つまり、「(政府の)根底に流れる思想や価値観、制度や仕組み、機関」などを含めて「どういう政府なのか」という「政府のあり方」を言っていると理解し、「政府のあり方そのもの」としています。